

**2007年度  
活動報告書**

**龍谷大学ボランティア・NPO活動センター**

## — 2007年度報告書目次 —

2007年度 ボランティア・NPO活動センターをふりかえって .....	3
<b>I. 2007年（平成19年）度活動概要 .....</b>	<b>5</b>
1. ボランティアコーディネート .....	5
(1) ボランティアコーディネート集計 .....	5
(2) 一般受付・コーディネート集計 .....	6
2. 学生活動報告 .....	8
<b>継続的なプログラム</b>	
(1) ボランティアコーディネート .....	8
(2) ホームページ .....	8
(3) メールマガジン .....	9
(4) 広報・掲示（チラシ） .....	9
<b>II. ボランティア・NPO活動を通じた人材の育成—学生スタッフの育成— .....</b>	<b>11</b>
1. オリエンテーション深草・瀬田合同合宿 .....	11
(1) オリエンテーション in 近江八幡（深草センター）	
(2) スタッフわくわくオリエンテーション合宿 07!!（瀬田センター）	
2. 地域のNPO/NGOの現場で学ぶ .....	15
(1) 国内研修	
1) 「世界自然遺産、屋久島にみる真の自然」	
2) 「現在—過去—未来 今、沖縄が抱える問題」	
(2) ボランティア・NPO活動を通じた地域や行政との連携	
1) 南宇治中学校部活支援ボランティア（宇治市立南宇治中学校）	
2) 夜市ボランティア（主催：丸屋町商店街、町のオアシス）	
3) 農業ボランティア（主催：滋賀県庁環境こだわり農業課、こだわり滋賀ネットワーク）	
4) 大津祭（主催：（特活）大津曳山連盟）	
5) 守山高校講演会「ボランティア体験事業」（主催：滋賀県立守山高等学校）	
6) HOT STEP～世界に飛び出せ！～（ACCE・RitsBLOH）	
7) 「きずき・きっかけ・きずなボランティア2007」分科会講演（立命館大学）	
8) くさつ子どもフェスタ（主催：（財）草津市コミュニティー事業団）	
9) 大学ボランティアセンター巡り（関西圏内の各大学ボランティアセンター）	
3. センターを運営する実践スキルを身に付ける .....	37
(1) ボランティアリーダー育成講座	
(2) 外部団体への研修会参加	
1) 多文化共生の学校づくり～横浜市立いちょう小学校 主催：滋賀県国際協会	
2) 国際教育・多文化共生教育スタディツアー 主催：滋賀県国際協会	
3) 関西NGO大学 主催：（特活）関西NGO協議会	
4) 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 主催：（特活）ユースビジョン	
(3) 団体訪問について	

4. 国際社会で視野を広げる .....	57
(1) 海外体験学習プログラムについて	
(2) 参加者の報告書	
1) 中国 2) エチオピア 3) フィリピン	
5. 大学内におけるボランティア活動の実践 .....	87
(1) エコ恋の取り組み	
(2) リユース傘貸し出しプロジェクト	
6. 緊急災害支援の取り組み .....	91
(1) 新潟中越沖地震災害支援義援金活動の取り組み	
(2) 新潟中越沖地震災害支援ボランティア派遣について	
Ⅲ. 学生スタッフが行うボランティア活動の啓発と参加のきっかけの提供 .....	94
主催イベント	
(1) 国際協力コンソーシアム～関西の学生NGOをつなぐ～	
(2) ボランティアシネマイニング	
(3) 野宿者支援プロジェクト～釜ヶ崎フィールドワーク～	
(4) 海外ボランティアセミナー（協力：(特活) テラ・ルネッサンス）	
(5) 講演会～インドの農村開発と教育～・インドスタディツアー報告	
(6) 沖縄・平和を願うパネル展（協力：沖縄平和ネットワーク、命を守る会）	
(7) 環境問題啓発パネル展－龍谷祭にて－（協力：京エコロジーセンター）	
(8) 「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ	
(9) Big Issue講演会～ホームレスと若者～	
Ⅳ. 「平成19年度学生ボランティア活動支援・促進の集い」における事例報告 .....	111
Ⅴ. 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター規定 .....	118
Ⅵ. 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター名簿 .....	120
Ⅶ. 主な新聞記事、出版物等 .....	122

## V. 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター規定

制 定 平成13年 3月 1日

一部改正 平成15年 5月15日

平成17年 7月21日

平成19年 9月27日

(設 置)

第1条 本学にボランティア・NPO活動センター（以下「センター」という。）を置く。

(目 的)

第2条 センターは、営利を目的としないボランティア活動を通じて、相互に学び合うサービスマーケティングという共生の理念を具現化し、本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 センターは、前条の目的を遂行するために、次の事業を行う。

- (1) ボランティア・NPO活動を通じた人材育成及び教育支援に関する事項
- (2) 本学の教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事項
- (3) 本学の教育研究に相応するボランティア・NPO活動の環境整備に関する事項
- (4) その他、ボランティア・NPO活動センター委員会が必要と認めた事項

(役職者)

第4条 センターに、次の役職者を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 副センター長 2名

(センター長)

第5条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

2 センター長は、専任の教育職員の中から、学長が指名する。

(副センター長)

第6条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長が事故ある場合又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理又は代行する。

2 副センター長は、専任職員の中からセンター長が推薦し、学長が委嘱する。

(委員会)

第7条 センターは、第3条に規定する事業を運営するために、ボランティア・NPO活動センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センター長の推薦する専任職員 若干名
- (4) センター事務部長

3 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(任 期)

第8条 センター長、副センター長及び委員会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員会の招集)

第9条 委員会は、センター長が招集し、議長となる。

(事業報告)

第10条 センター長は、センターが実施した事業について、毎年、学長に報告書を提出しなければならない。

(事 務)

第11条 センターの事務を処理するために、ボランティア・NPO活動センター事務部（以

下「センター事務部」という。)を置く。

2 センター事務部に、必要な事務職員を置く。

付 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

付 則 (平成15年5月15日第11条改正)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

付 則 (抄) (平成17年7月21日題名、第1条、第3条、第7条、第11条改正)

1 この規程は、平成17年7月21日から施行する。

この規程は、平成19年10月1日から施行する。

## VI. 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター名簿

### センター委員

鍋島 直樹 (センター長 法学部・教授)  
筒井のり子 (副センター長 社会学部・教授)  
北川 秀樹 (法学部・教授)  
横山 勝英 (経営学部・教授)  
松浦さと子 (経済学部・教授)  
竺 文彦 (理工学部・教授)  
青木 信雄 (社会学部・教授)  
金子龍太郎 (社会学部・教授)  
古川 秀夫 (国際文化学部・教授)  
中根 真 (短期大学部・准教授)  
井上 善幸 (文学部・講師)  
岡田 雄介 (学長室)  
鈴木 重夫 (図書館事務部)  
高林由美子 (入試部)

### 事務スタッフ

若林 浩文 (事務部長)  
辻 篤雄 (課長)  
西村 育子 (コーディネーター)  
宇田 朗子 (コーディネーター)  
小原 綾 (職員)

### 学生スタッフ (2007年度 計90名)

#### <深草学舎 41名>

梅田 和将 (文学4) 水溪 悠樹 (経済3) 津川 大作 (経済3) 生山 修司 (経済3)  
藤本 久司 (経済3) 山川 里美 (法学3) 石本 淳晃 (法学3) 藤原 西児 (法学3)  
木原 由貴 (法学3) 黒島 典子 (文学3) 長岡 恵 (文学3) 大西 未生 (文学3)  
竹村 美耶 (福祉専攻科) 横川 雅澄 (経済2) 安田 拓司 (経済2)  
山田 朋余 (法学2)  
石田 浩基 (法学2) 高橋 美貴 (法学2) 井上明日香 (短期大学2)  
西園 舞 (経営2)  
正田裕季乃 (経営2) 清水 麻未 (法学1) 鶴川 健 (法学1) 岩本 陽子 (法学1)  
中山志都香 (法学1) 田中 陽子 (法学1) 樫本 昌子 (法学1) 越智 史雄 (法学1)  
神垣 真 (法学1) 山下 直紀 (経済1) 竹中 保人 (経済1) 藤澤 良介 (経済1)  
杉山 佳意 (経営1) 秋田 祐介 (経営1) 松村 厚志 (法学1) 吉村 龍哉 (文学1)  
西山 美光 (文学1) 大西 龍亮 (法学1) ツォグフー ゴルバヤル (経済1)  
吉田三奈美 (経営1) 麻生 彩奈 (法学1)

#### <瀬田学舎49名>

伊藤 智士 (国際4) 太田さつき (国際4) 宇多村侑加 (国際4) 村上 麻美 (社会4)  
浅田 恵理 (社会4) 谷内 文子 (社会4) 平木慶太郎 (理工4) 川 将太 (社会3)  
竹内 俊史 (社会3) 山 翔太 (社会3) 倉本 庸正 (国際3) 井本 裕子 (国際3)  
清水 研吾 (社会3) 東野 涼子 (社会3) 前田 泰志 (国際2) 狗巻 洋平 (社会2)

中田 朱美 (国際2) 海野 遼祐 (国際2) 山崎 留奈 (国際2) 寺口 咲希 (国際2)  
中居 傑 (国際2) 田村 恵子 (社会2) 岸村 佳典 (社会2) 吉田 智美 (社会2)  
山口 麻里 (社会2) 富田 未記 (社会2) 村上知栄子 (社会2) 戸野 広子 (社会2)  
田中 楓 (社会2) 錦織 ゆり (社会2) 南口 竜 (理工2) 吉本 歩美 (国際1)  
好本 量子 (国際1) 中川裕依子 (社会1) 前田さなえ (国際1) 奥西 由美 (国際1)  
藤原真由子 (社会1) 広清 希 (社会1) 合田 宏江 (社会1) 丸山かなえ (社会1)  
濱田 智 (社会1) 高橋優太郎 (社会1) 内海恵多朗 (社会1) 伊藤 圭佑 (社会1)  
森下 聡美 (社会1) 大内亜理紗 (国際1) 添田 世紀 (社会1) 中臺 浩貴 (国際1)  
塩小路充暢 (社会M2)

## Ⅶ. 主な新聞記事



発行所 〒604-8577  
京都市中京区烏丸通夷川上ル

4/22(日)



© 京都新聞社 2007年

<http://kyoto-np.jp/>  
番号案内・受付 (075)241-5430  
読者応答室 (075)241-5421  
直通(075)241 京都新聞COM  
社会報道部 6119 販売局 6164  
文化報道部 6127 広告局 6172  
〈運動〉 6129 事業局255-9754  
購読お申し込み 0120-464-468  
滋賀本社 (077)523-3131

### 国際支援の学生、連携

龍谷大で  
コンソーシアム 互いの活動を報告

国際支援活動に取り組む関西の大学生らが交流する「国際協力コンソーシアム」(龍谷大ボランティア・NPO活動センター主催)が二十一日、京都市伏見区の龍谷大で行われた。

活動や悩みを紹介し合い、お互いの連携を深めようと、学生らでつくる実行委が初めて企画。カンボジアやインドネシアで教育や就労などの支援活動に取り組む関西のNPO法人(特定非営利活動法人)やグループの九団体約六十人が参加した。

各団体が、現地の子どもに絵本を贈ったり、現地の状況を知ってもらう講演会や写真展を開催するなどの活動内容を紹介した。この後、大阪ボランティア協会職員らを講師に招き、運営、広報、組織の三テーマに分かれて「学生以外に活動を伝える方法を知りたい」「多くの新入生に参加してほしい」などといった課題や、解決策を話し合った。

実行委代表の龍谷大三年藤原西見さん(三〇)は「連携が深まって新しい活動につながれば、次も開催したい」と話していた。(河北健太郎)



国際支援活動の内容を発表する学生  
(京都市伏見区・龍谷大)

2007年4月22日(日) 京都新聞掲載

# 龍大生が部活を指導

## 南宇治中 ソフトテニスや吹奏楽

龍谷大の学生ボランティア十一人が三十日、宇治市大久保町の南宇治中を訪れ、中学生の部活動を指導した。

学生のボランティア活動の窓口となっている「龍谷大学ボランティア・NPO活動センター」の学生スタッフが企画し、学内で参加者を募って春と秋の年二回、同中を訪れている。

学生は卓球部、バレーボール部、ソフトテニス部、吹奏楽部に分かれて、それぞれの経験や技術をもとに中学生を教えた。



山田さんからサクソホンを教わる中学生  
(宇治市大久保町・南宇治中)

が楽器ごとに分かれ、サを中学生と一緒に演奏クソホンやフルートなどし、そろわないところを

止めては丁寧に教えた。サクソホンの指導をした法学部二年の山田朋奈さん(左)は「教えるのは新鮮で楽しかった。今後参加したい」と話す。教えてもらった中学一年の越智雅浩くん(右)は「具体的に教えてもらったので、練習すればうまくなれそう」と話していた。(小林沙恵)

2007年7月1日(日) 京都新聞朝刊掲載

「龍谷大学ボランティア・NPO活動センター」に登録している同大社会学部一回生の添田世紀さん(19)は写真、大津市美空町は11月から、社会人の車いすバスケットチームの練習に交じり、選手が競技用の車いすに乗り換えるときに手を貸したり、練習相手になったりしている。

## 車いすバスケットで選手の助っ人役



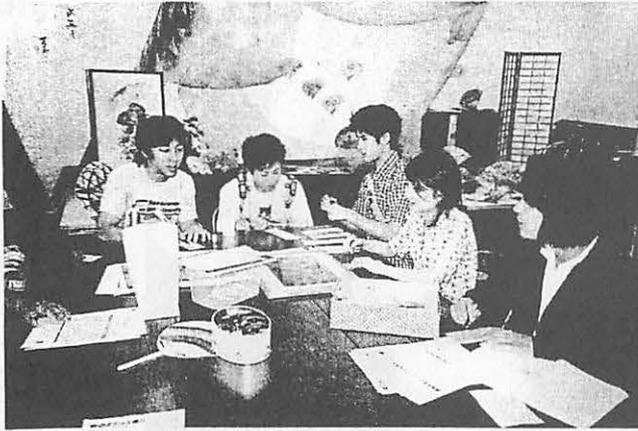
ます」。8月には新潟県中越沖地震の被災地に入ったボランティアとして土

をどける作業中、ペアになった男性のひたむきな姿勢に、「自分は今まで、被災者であることを本当に思っていたのだろうか」と見つめ直したという。

「出会いも広がり、交流も深まる。ボランティアは自分にとって、かけがえのない場所です」という。

2007年12月21日(金) 朝日新聞朝刊掲載

## 「まちづくり」は「ひとつづくり?」「空気づくり?」



オアシスを拠点に調査研究をする学生たち



オアシストが活躍した商店街グルメ試食会



学生が高齢者の智恵を学んで開催した「野菜の屋台」



大津祭に参加協力した学生とNALC、オアシススタッフ

「ひとつづくり」という観点から見ると買い物ボランティアとして養成した「オアシスト」と共に、広い意味で「スタッフとしての高齢者」などが含まれると思う。大学なども毎年ボランティアや卒業研究などで多くの大学(専門学校)学生が訪れ、こちらの事業に協力してもらったり学生の活動をサポートしたが、いずれも単年度になりがちであった。ただ龍谷大学ボランティア・NPO活動センターだけは、毎年センターとして取り組み、引継ぎを行って新たな学生が「先輩から面白いと聞いてきました」といってくれるのが大変頼もしく思う。社会福祉協議会の実習生の受け入れも毎年継続して行った。卒論の取材や、自分たちの研修内容に対する質疑、またオアシスの事業にも積極的な意見を発し実際に行動が伴う人材が多く私たちもその協働は大変力強いものであった。

「空気づくり」という観点では、常にイベントを開催していくことにより「町が動いている」と感じてほしいと期待してい

### 町のオアシスの2555日 介護予防とまちづくり

町のオアシス運営委員会 編著  
発売サンライズ出版

た。毎月欠かさず発行しつづけた「オアシス便り」もその思いの一環であった。毎月通信を発行する。展示やコンサートを毎月続ける。火曜から金曜までは(正月休み以外は)祭日でも必ず開いている。

#### 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

2004年瀬田にボランティアセンターが開設されたおり、筒井教授の依頼で学生たちのボランティア研修講座を行った。その後毎年、大津祭での弁当販売、夜市、商店街事業に学生たちは大きな力を発揮してくれた。ボランティアしたい学生と、受け入れたい団体をつなぎ(紹介)、双方の思いを翻訳し(世代間の感覚調整)事業を実施していくコーディネーターがオアシスの役目であった。ともすれば学生のかかわりは個人的で、卒業すれば縁がなくなることが往々にしてあるが、龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは、毎年後輩に引き継いで次を育てる仕組み作りをされており、お願いするこちらも安心して協働できた。

.....  
発行日 2008年7月30日

発行・編集 阪口 春彦

印刷 (株)双林印刷社

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

■ 深草学舎

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL 075-645-2047 FAX 075-645-2064

・京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約3分

・JR奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分

・京都市営地下鉄「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分

■ 瀬田学舎

〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5 青志館南側

TEL 077-544-7252 FAX 077-544-7261

・JRびわこ線「瀬田」駅下車、帝産バス約8分

URL <http://www.ryukoku.ac.jp/npo/>

E-MAIL [npo-naka@noc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:npo-naka@noc.fks.ryukoku.ac.jp)